資料２

# 平成31年度・令和元年度　みやき町立三根西小学校　学校評価計画

| 1　学校教育目標 | 2　本年度の重点目標 |
|---|---|
| やさしく、かしこく、たくましい　三根西っ子の育成 | ①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成）<br>②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成）<br>③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成） |

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

達成　A：ほぼ達成できた
　　B：概ね達成できた
　　C：やや不十分である
　　D：不十分である

## 3　目標・評価

### ①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成）

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | 「特別の教科　道徳」を要とした道徳教育の充実 | ・年間計画に従い、35時間の授業を実施する。<br>・「考え議論する道徳」に取り組む。<br>・授業参観で、道徳の授業を1回以上実施する。 | ・デジタル教科書を有効に使い、主体的・対話的で深い学びを実践する。<br>・ふれあい道徳の実施に伴い、計画的に参観授業を行うとともに、通信等で共通理解を図る。 | A | ・1年生34時間、2～6年生35時間の授業を実施することができた。<br>・授業参観で道徳の授業を公開し、学級だより等で道徳教育への理解を図った。<br>・「考える道徳」「議論する道徳」を意識した指導を行うことができた。 | ・年間計画に従って、授業を行っていく。<br>・「考える道徳」「議論する道徳」の授業を実施するための方策についての研修を深める。<br>・「評価」について引き続き研修を積む。 |
| 教育活動 | ●いじめの問題への対応 | 人権が尊重される、環境づくり、人間関係づくり、学級活動づくりの充実 | ・ふわふわ言葉、ふわふわアクションあふれる学校にする。 | ・こころの集会、学級活動等で、ふわふわ言葉・ふわふわアクションに関した取り組みをし、意識の高揚を図る。<br>・児童会が主体となって、ふわふわ言葉、ふわふわアクションを推進する取り組みを計画し実行する。 | B | ・ボランティア委員会の活動の柱に「いいことといっぱい活動」を位置づけ、ふわふわ言葉、ふわふわアクションを推進する取り組みを全校の取り組みとした。「いいこと」をノートに綴ったり、校内放送で紹介する活動は毎日継続することができた。 | ・「いいことといっぱい活動」の継続。<br>・各学級で、ふわふわ言葉、ふわふわアクションの具体化として「いいことといっぱい活動」を位置付ける。 |
| | | 自己指導力を高める生徒指導の充実 | ・進んであいさつをする児童を育成する。<br>・ごみを放置しない学校にする。 | ・あいさつを年間通した生活のめあてに設定し、意識付けを図る。<br>・傾聴し合う仲間づくりの意識付けを図る。<br>・「ごみゼロ活動」の実施による意識付けを図る。 | B | ・校内では、誰に対しても挨拶をすることができている。<br>・校外での自発的なあいさつは課題がある。<br>・ごみの少ない学校になってきている。<br>・ごみにしないように意識付けをする。 | ・地区児童会、登校班長会、一斉下校等で安全面の指導とともに、地域でのあいさつについて指導する。<br>・ごみゼロ活動についての放送原稿の見直し。 |

### ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成）

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●学力の向上 | 校内研究の推進 | ・全員１回以上の研究授業を行う。<br>・講師招聘により、指導力の向上を図る。<br>・校内研修の充実のために大学の教授等を数回招聘し、理論研究の充実を図る。 | ・低・中・高学年グループで1回ずつ全員参観の授業研究会を行う。部会ごとの授業研究会も実施する。<br>・指導講師から、低・中・高学年部会ごとに、実態に応じた教材研究や単元計画づくり・指導案検討などの具体的な指導を受ける。<br>・指導講師と連携しながら、長期休業中に理論研究を行う。<br>・他校の研究会への参加を奨励する。 | A | ・計画通り授業研究会を開き、「問いを立てる」活動を授業の中に位置づけ、児童の主体的な取り組みを支援することができた。<br>・講師に西原宏一先生を5回招き、様々な指導助言を頂いたことで、研究の深まりがあった。 | ・研究内容を精査し、狭く深く研究できるような主題を設定する。<br>・他校の研究会への参加を更に奨励していく。 |
| | | 読書活動の推進 | ・学年の目標冊数（低学年・・・120冊、中学年・・・100冊、高学年・・・80冊）を80%の児童が達成する。<br>・学年の「おすすめの本」30冊を80%の児童が読む。 | ・すきま読書を推奨する。。<br>・「学年の目標冊数」「おすすめの本30冊」の意識づけを年間通して図る。<br>・図書館から出される各児童の貸出冊数の資料を通して実態を把握し、次学期、個別に具体的に読書指導を行う。<br>・多読者のみでなく，昨年度は目標達成できなかった児童の中から今年度冊数を伸ばしている児童を賞賛する。 | B | 図書館システム化により，貸出・返却が容易になったことで貸し出し冊数が伸びた。<br>1月末の統計結果で<br>・学年の目標冊数（低学年・・・120冊、中学年・・・100冊、高学年・・・80冊）を達成した児童は、全校の80%<br>目標冊数を達成する児童が大幅に増えた。<br>・学年の「おすすめの本」30冊を読んだ児童は、全校の69%<br>昨年度からは達成率も伸びているが，目標には達していない。 | ・図書館に足が向かない児童，読まない児童へは，具体的に個別に読書のよさを勧める<br>・6年間を通して、更には生涯読書に親しむ人間を育成するためには、全校で一貫した読書指導計画を立て、全校職員が年間通して児童の読書活動に関心をもって取り組む。<br>・読書を学力向上の下支えと位置付け、推進を強化していく。 |
| 教育活動 | ○特別支援教育 | 特別支援教育の充実 | ・児童一人一人の教育的ニーズを把握する。<br>・個々の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、又は克服するための適切な指導、必要な支援を行う。 | ・教育相談連絡会を年4回、週1回実施の連絡会にて、教職員間の情報共有を行い、指導・支援の連携を図る。<br>・報告・連絡・相談を迅速に行い、保護者とともに、専門機関やSSW・SCとの連携を密に行う。 | B | ・教育相談連絡会や週１回の支援会議で、教職員間の情報共有を行い、指導・支援の連携を図った。<br>・毎週金曜日の支援会議は短時間のため、授業への支援員配置計画作成を行い、支援員との連携を図った。<br>・保護者や専門機関、SSW・SCと連携を行った。 | ・教育相談連絡会、支援会議の継続と充実。<br>・保護者、専門機関などとの連携の継続と充実。 |

### ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ●健康・体つくり | 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ・90%の児童が、朝食を摂って登校する。<br>・食育への関心を高める実践を行う。 | ・食育の授業を年に1回は各学級で行う。<br>・朝の健康観察で朝食摂食の実態把握を毎日行う。<br>・授業や学級活動において、「食育アンケート」「早寝・早起き・朝ごはんアンケート」の結果を生かした実践を行う。<br>・給食の献立紹介時に、栄養素の紹介をし、食品に関心をもたせる。 | B | ・食生活アンケートで、朝食喫食率は、約96%だった。（ただし、2，4，6年のみ調査）<br>・半数のクラスで、食育授業（ロング・ショート）を行った。<br>・各学年で、教科や行事を関連させた児童の食への興味を高める取り組みを行った。<br>・給食時間に、放送で、献立とともに栄養素の紹介をしたので、食に関する関心が高まった。 | ・すべての学年で、食育授業に取り組むために、学年当初に計画を立ててもらうように働きかける。<br>・朝食喫食率が100%になるように、朝の健康観察で朝食摂食の実態把握を毎日行い、声掛けを続ける。<br>・給食時間に、放送で、献立とともに栄養素の紹介をする活動を今後も続け、食べ物に関する興味・関心をもたせる。 |
| 教育活動 | ●　志を高める教育 | 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 | ・　自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。 | ・　全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。<br>・「夢の教室」の実践を通して、6年児童に夢を持つこと、それに向けて努力することの大切さを理解させる。 | A | ・道徳の時間や特別活動、総合的な学習の時間などの時間を通して、自己肯定感を高めることや自分の夢について考える学習を行い、意識付けを図ることができた。<br>・「夢の教室」の学習を通して、6年児童に夢について考える機会と夢の実現に向けて自分がどう努力して行けばいいのか考えさせることができた。 | ・自己肯定感を高め、夢を持ち実現させるために、教育課程に「夢」について考える場を位置付けた取り組みを図る。<br>・6年生の「夢の教室」については、外部講師から夢について具体的に話を聞ける場として今後も継続をしたい。 |

### 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題（左記の理由） | 具体的な改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 業務の明確化<br>教職員の連携促進 | ・担当する分掌事務を、その目的やねらいを明確にして、スリム化を図る。<br>・業務改善につながるアイデアを各自1つ以上出し合い、チーム力の向上を目指す。 | ・校務シェアボードの回覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡とねらいに応じた振り返りをタイムリーに行う。<br>・限られた時間を有効に使う意識で、校内の「ひと・もの・こと」の改善点を出し合う場を学期に1回設定し、実行に移す。<br>・円滑な教育活動推進のために、毎週はじめに、校長、教頭、教務、事務職員で打合せを行う。 | B | ・校務シェアボードの回覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡は行うことができた。行事の振り返りについても、各担当で反省と次年度に向けた改善点を示し次に繋がるようにしてきた。<br>・限られた時間を有効に使う意識で、体育大会の時短や行事の内容の見直し、みまもりノートの稼働などを行い、業務の改善に繋げた。 | ・職員が見通しをもって教育活動を行えるように、校務シェアボードの回覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡を確実に行う。<br>・校内の「ひと・もの・こと」をどう活用し改善して進めていくかについて、職員で検討し、行事の効率的な運営を図る。 |
| | ○開かれた学校づくり | 地域連携、幼保小中連携の推進 | ・授業参観や学校行事における児童の家族及び地域住民の来校者を前年度比10%増を目指す。<br>・三根校区の幼保、三根東小、三根中との交流行事に関わる児童及び教職員数の前年度比増を目指す。<br>・地域連携を図るため、推進するための話し合いの場をもつ。 | ・1つの行事の案内を複数の場面で行い、期日や内容の事前周知を図る。<br>・学校ホームページの更新を定期的に行い、教育活動の様子を随時伝える。<br>・三根校区幼保小中の会議や研修、交流会の事前周知・情報共有を図る。<br>・地域連携の連絡会を年に1回以上実施する。 | A | ・体験活動や地域の方との交流活動については、報道機関への投げ込み、学校便りでの地域への広報活動などの手立てを取り周知を図った。<br>・授業参観においては、参観者数は前年度並みの参加者数ではあったが、地域の方々との交流で行った「つんき一だご汁会」への地域の方の参加者が増えた。<br>・学校のホームページの更新も定期的に行い閲覧者の数を増やすことに繋げた。 | ・地域サポーターの方をお招きしての感謝の会や6年生のだご汁感謝の会は、区長さんや民生委員さんの行事と重ならないように、地域の方々との連絡会を5月に開き日程の調整を行い、参加者の増加に繋げる。<br>・まちコミメールや学校便りを活用し、保護者、地域の方々の授業参観等への参加をより積極的に呼びかける。 |

## 4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

◎「①やさしい子を育む」では、道徳、学活、全ての教育活動を通して、思いやりの心で人と接することを伝えてきた。特に、してもらって嬉しかったことを「いいことといっぱいカード」に記入し、給食時に紹介する活動は成果が上がる取り組みであった。また、日ごろお世話になっている方々への感謝の気持ちを表すために、感謝の会を11月６日（水）朝の時間に、つんき一だご汁会を2月18日（火）に開いた。今後も児童の心を育むための取組を継続していく必要がある。

◎「②かしこい子を育む」では、 佐賀市教育委員会の西原宏一指導主事を講師として招聘し、「主体的な学び」を一層充実できるよう国語科において、「問い」を持たせて学習に取り組む研究に取り組んだ。課題は、「問いをどう持たせるか」と文章を読み取る能力を高めることである。

◎「③たくましい子を育む」では、食生活アンケートで、朝食喫食率は100%で表彰を受けた。全学年で食育の授業を行い、教科や行事を関連させた児童の食への興味を高める取り組みを行ったことが成果に繋がった。今後も家庭に学校での取組やアンケートの結果等をお知らせし協力して取り組みを進めていきたい。また、本校の児童は休み時間等、外で遊ぶ習慣が身に付いている。体力向上のために、これからも外遊びを推奨したい。

◎「開かれた学校づくり」については、地域、幼保小、小中及び小小中の連携がより深まるように取り組んできた。地域には、学校での様子を学校便りや学校ホームページ等でお知らせすることにより、学校に足を運んでもらえることが多くなった。小小連携では、修学旅行等で無理なく一緒に活動できることを考えて交流を目的に実施した。中学校へのスムーズな移行も視野に入れて、中学生による挨拶運動や体育大会ボランティアの派遣などが充実してきており、継続したい。小小中の連携として、教育相談連絡会を年3回実施した。SCも同席し、気になる児童の情報交換と進学への視点も含めて話し合いを行った。

●は共通評価項目、○は独自評価項目